

ふるさとの坂道「じゆんきやう みち おとめ とうげ殉教の道乙女峠」

明治政府は維新後もしばらくの間、キリスト教に対しては徳川幕府と同じような政策をとり、幕府瓦解を受けて現れた長崎浦上の隠れ切支丹を改宗させるため、そのうち153人を津和野藩に預けた。

津和野藩では、これら切支丹を乙女峠の廃寺光琳寺に收容していたが、明治6年に諸外国の強い要請により信教の自由が認められるまでの間に多くの死者が出ている。

昭和26年には、この地に殉教者に捧げるマリア堂が建立され、切支丹弾圧の史実を今に伝えている。

この乙女峠は悲しい歴史の跡地として訪れる人々の涙を誘いつつも、散策やいこいの場となっており、毎年5月には殉教者の霊を慰める乙女峠まつりが行われる。



所在地	島根県津和野町大字後田
諸元	延長：220m、幅員2m
材料	砂利道
イベント	乙女峠まつり